

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

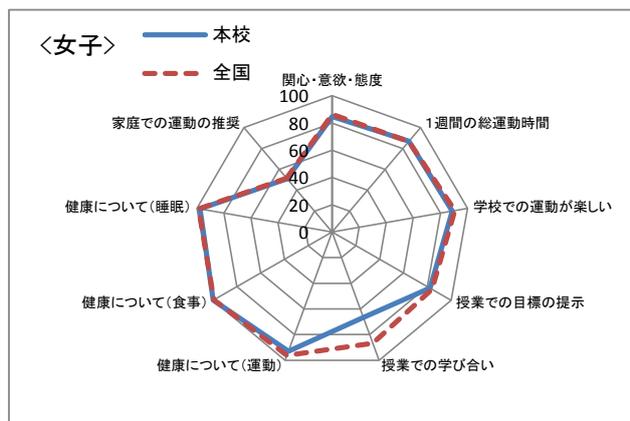
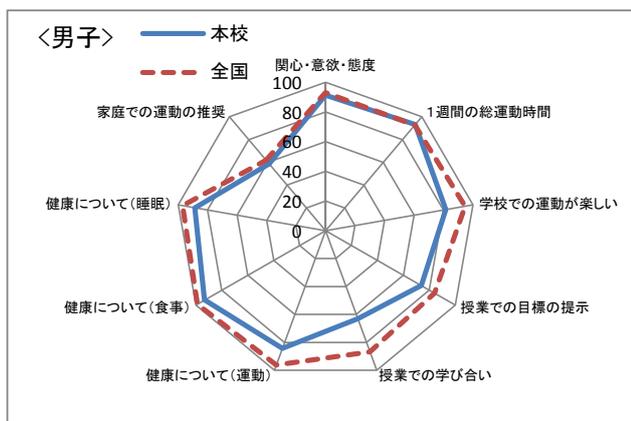
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
本市	16.69	20.49	33.79	42.59	55.22	9.38	154.29	23.74	55.23
本校全国平均以上の種目	○	○	○		○	○		○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77	55.90
本市	16.24	19.41	37.96	40.62	44.39	9.61	147.43	13.93	56.64
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

・運動に対する「関心・意欲・態度」、「健康について」の意識においては、ほぼ全国と同程度の結果が出ている。このことから、学校全体で取り組んできた、「平和ヶ丘の活用」による児童の運動量の確保、保健領域を含めた「体育科学習指導の徹底」が一定の成果を上げていると言える。さらなる、「関心・意欲・態度」の高揚を目指し、「平和ヶ丘の活用」「体育科学習指導の徹底」は今後も継続していく。
 ・授業での学び合い(話し合い活動)に対する意識が、全国と比較してやや低い。子どもたちが主体的に学習に取り組む場面の一つとして、全職員で共通理解し、学習展開の中で実りのある学び合い(話し合い活動)の場面を取り入れていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・毎時間ホワイトボード等を活用し、授業の目標を明確に示すとともに、話し合う活動(学び合う場面)を確保する等、徹底して授業改善に努める。(全校で)
 ・今年度の結果から、本校の課題である、反復横とび(敏捷性)と立ち幅とび(筋パワー・跳躍能力)の向上を目指す為に、「体ほぐし運動」や「ラダーを使った運動(陸上運動)」等を積極的に取り入れるようにする。(学年学級で)
 ・次年度も、パワーアッププランに基づき、準備運動の充実、運動量の確保を行うと共に、集団行動の徹底を全職員共通理解のもと進める。(全校で)

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・「学校便り」、「学年学級通信」、「ほげん便り」等を通じて、体力向上及び運動習慣の重要性を発信していく。
 ・一校一取組として「平和ヶ丘の活用」と「ランランタイム(持久走)」は、児童の運動量の確保及び体を動かすことに対する関心を高めるといった点において、次年度も継続する。